

(紙)(面)(あ)(ん)(な)(い)

- 2面 慢性疾患マニュアルが完成
- 3面 審査アンケートの集計
- 4面 健康なんでも相談50回
記念座談会
- 5面 応急処置の実技講習会

石川保険医新聞

発行所
石川県保険医協会
金沢市尾張町1丁目9番11号
尾張町レジデンス2F (〒920)
電話 (0762) 22-5373番
発行人 後藤田博之
印刷所 ユーアイ印刷
(会費月額 3,800円)

老人医療が狙いうち

これ以上の負担増には耐えられぬ

協会、老人クラブと懇談

減る収入 増える自己負担



本音で話し合った老人会代表との懇談会
(9月21日、金沢市文化ホールにて)

老人医療の自己負担増問題について県保険医協会は九月二十一日、金沢市内の老人会代表と老人医療についての初の懇談会を金沢市文化ホールで開いた。協会側からは後藤田会長ら六人、老人会側からは市連合会役員、単位老人会の会長ら十八人が出席した。

まず協会側から「政府は来年六月頃を目途に財政危機を理由として、老人保健法を改訂し、老人の一部負担を外来一カ月三百円から千円、入院二カ月まで一日につき三百円を無期限に一日五百円に引き上げようとしている。」さらに「政府が目的とするのは窓口に負担の増加だけにとどまらず、日本全体の入院ベッド数を減らし、いわゆる中間施設や在宅医療を増やし、公費負担を極力減らして、財政危機に悩むアメリカのように積極的に民間保険を導入し、自己負担を増やそうとしている。」

「このまま黙認していると、いざ病気になるでも医者にかかることはおろか、入院すら出来ないと言う事態になりかねない。当のお年寄りばかりでなく、国民の一人一人が立ち上がる時が目前にきている。どうか皆さんも手を携えて老人医療改悪阻止を目指そう。」と提案した。

これに対して、老人側からは、自己負担増について、「老人はタダだ、タダだと云われるが、年間三十五万円までの保険料を支払っていることが全く無視されているのはどういふことか。タダではないことをもっとPRしなければならぬと思う」とか、「収入が限られているわれわれにとって、自己負担増はやはりこたえる。外来だけを例にとっても、三カ所お医者さんにかかるのと、ひと月九百円から三千円になる。」さらに「入院した場合でも一部負担のほかに、一日一万円から二万円もする付添看護料や追加料金も取られる。完全看護とは名ばかりで、一旦入院すると一カ月に数十万円もの支出を強いられる医療の仕組みがわからない。」「戦中・戦後一番苦労したのはわれわれの世代だ。今になってわれわれの負担が増え、さらに軍事費ばかりが増加していくのは許せない。」と現状に対する数々の不満や、将来に対する不安の声が聞かれた。

老人会自身が 運動の先頭に

一方、今回の懇談会について、「医者と言えは医師優遇税制で長者番付けに並ぶような職業だと思っていたが、医学のほかに医療制度や経営まで勉強せねばならぬんだと、今日始めて知りました。そしてわれわれ老人が、どんな立場に置かれているかも分りました。」とか「県立病院の赤字や某病院の倒産なども分るような気がする。将来、治療費があまりにも抑えられる



金沢市連合会や校下連合会の役員も出席し、熱心に意見交換

今後、老人会として「安心して老後を過ごすためには、いま老人会自身が結集して運動する必要がある。医者が先頭に立って運動すると、金儲けのためと世間から見られる恐れがある。陣頭に立つのはわれわれ老人でなきゃならぬ。早速地元老人会を折にふれて、この問題を持ち出したい。」「温泉へでも行こうかとなると、すぐ集まるが、政治に絡んだ話となると、どれだけ結集できるか分らないが、今後、老人がデモでもかける力と勇気を持てるよう努力したい。」「保険医協会に対しては今まで以上の協力で、今後のバックアップをお願いしたい。」と最後には自発的な意見が多数を占め、初の懇談会としては非常に有意義な成果を得た。

尚、この懇談会の模様は、北国、北陸中日、毎日各新聞でも翌日報道された。

医心凡語

秋雨前線も一息ついて気持の良い秋色に包まれるようになった。これからの秋本番である。山々は一雨ごとに錦を増し、冬仕度を迎える。

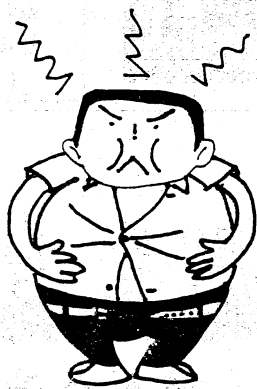
秋の日の ヴィオロンのためいきの 身にしみて ひとぶるに うら悲し。 鐘のおとに 胸ふたぎ 色かへて 涙ぐむ 過ぎし日の おもひでや げにわれは うらぶれて ここかしこ さだめなく とび散らふ 落葉かな。 ヴェルレーヌ詩集 (上田敏 訳)

◇ 一時期「お医者さんはいいね、景気に左右されずに」と云われた事があったが、過ぎし日の想い出である。昨年の秋に健保本人一割負担になったから一年、その結果どうだろうか。厚生省の抑制策は着実に定着し、今後は更に老人と入院を中心として抑制策の焦点をしばって進められていく。

◇ 紅葉の見ごろは平野部では例年より一週間早い二十日頃だという。今年はいつもより冬の訪れも早そうである。冬来りなば春遠からじ、時が経てば春がやってくるが、医療の世界は暗く長い冬の真只中である。春は一向にやってきそうではない。

肥満 (その2)

肥満と高血圧、脳卒中



※マニュアルは右のようなイラスト入りで、わかりやすく書かれています。

今年の二月から取り組んで来た「慢性疾患の指導・管理マニュアル」が、ようやく九月末で完成しました。これは増加する慢性疾患患者を診察される先生方に、少しでも役に立てばと考えて作成したものです。対象疾患は、高血圧、虚血性心疾患、糖尿病、胃・十二指腸潰瘍、肥満の五種類で少ないのですが、今後更に増やす予定です。

秋田から針灸療術師の広告宣伝に対する規制運動の申し入れ。新潟から「減点された一部負担金を返せ」に対して、無駄な検査治療でなければ患者の受診の権利を不当に制限されたことを患者に伝えて共闘するようにしなさいとの答。三重より無資格操作(自動車

保団連幹事会

石川協会の老人会懇談会に大きな拍手

運動手がレントゲン)に対する注意。神奈川の組合員検診、地域活動で患者の増えた話。岩手県より寒冷地手当への運動目標。今回は税制への発言が多くあり、社保の事業税は六十一年はよいが、六十二年から大規模増税とともに実施される見込み。医師連盟

慢性疾患マニュアルが完成

患者教育に使って下さい

ベルを老人患者に合わせたつもりです。使用される際には、ファイルブックなどに入れていただけると便利だと思いたす。先生方に実際に使用していただき、不備な点をどしどし実費でお分け致します。

歯科部会づくりの対策会議も

昼食時間に、まだ歯科部会のできていない県が集まって作るための現況報告がなされ、理事会の意志決定及び担当理事、事務局員の配置、歯科医師に必要な研究会や講習会を開き、世話人会を確立し、協会新聞などにその運動を反映させてゆくことが大切であり、そのためには歯科協議会及び他県歯科部会よりの応援が得られることが述べられました。(保団連幹事 平松昌司)

持論

超高齢化社会に進みつつある現在、老人医療のあり方が大きくクローズアップされて来た。即ち昭和四十八年来、十年間無料であった七〇歳以上の老人医療費は昨年二月の老人保健法施行で一部負担が導入され、更にこの度、二回目の改革が行われようとしている。もし実施されると、外来で二・五倍、入院では一・七倍の自己負担増となる。昨年、健保法が改正され、健保本人の自己負担の増加による受診抑制の結果が各方面から明らかにされている。従って有病率が高く、慢性疾患は多く、又、低所得層の多い老人に対して、更に自己負担の増加はますます受診抑制につながることは明らかである。

認めてはいけない 公的医療費の削減

このような改革が簡単に実施されるならば、これからは毎度改悪されるものと考えなければならぬ。更に老人医療の一環として、本年八月二日に中間施設に関する懇談会は「要介護老人対策の基本的考え方」に定める施設として「在宅型施設」と「入所型施設」を作り、その要望に答えるとしている。この考え方には異論はないが、入所型として中間施設なる制度を実施しようとしている。これら政府の考えている老人医療制度が実施されるならば、われわれは良心的で患者のためになる医療は出来なくなるばかりでなく、憲法第二十五条のすべての国民が「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を守ることも、老人福祉法第二条の「老人は多年にわたり社会の進展に寄与した者として敬愛され、かつ健全で安らかな生活を保障される」との精神を真に生かすことは出来ない。老人をはじめ、医療・福祉関係者は地域住民と協力して老人が天寿を全うするまで健やかに生きることが出来る保障をめざし、今回のような医療制度改悪を阻止するよう運動の輪を広げることが重要である。

協会の行事案内

経営対策講演会

これからの医療、厚生行政のゆくえとその対策 生き残るための実践的経営戦略 講師 税理士、メディカルコンサルタント 川原 邦彦 先生

十月二十四日(木) 午後七時 金沢ニューグランドホテル 4F 参加費 三、〇〇〇円

講演会

これからの開業医シリーズ (第二回) テーマ 実地医家にすぐ役立つ慢性疾患の管理 講師 兵庫県保険医協会理事 大田 黒義 郎 先生

十一月四日(休) 午後一時 ホリデイ・イン金沢 3F

小松地区区会員懇談会

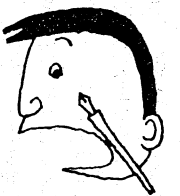
十一月十六日(土) 午後六時半 レスト三湖

参加費 三、〇〇〇円(夕食込み)

老人医療の見直しや事業税課税の動きなど医療環境が厳しさを増す中で、開業医がどう対処すればよいのか、最近の協会活動を紹介しながら、小松地区区会員諸先生の要求に応えた活動を一緒に考えていきたいと思ひます。ぜひご参加くださるようお願い致します。

第7回審査アンケートの集計

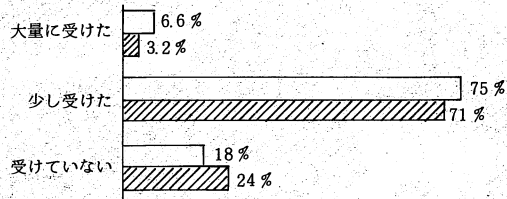
審査の強化が数字の上で



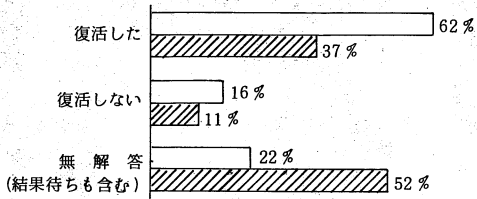
返戻の復活率がダウン

昨年の第六回審査アンケートは、健保本人一割負担実施を目前にした時でしたが、今回は一割負担が実施されて、すでに約一年が経過し、さらには老人医療の改善が予告されている時でもあり、医療費削減の手段として審査の強化が叫ばれている最中の八月末日に全協会員に対して第七回審査アンケートを実施しま

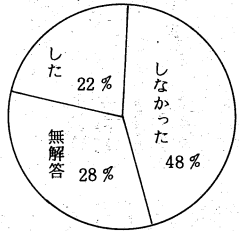
問1. この1年間に診療内容に関する返戻及び減点を受けたことがありますか。



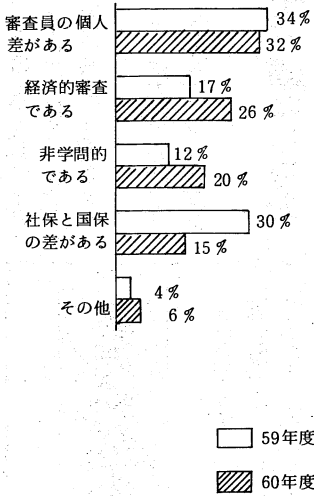
問2. 返戻レセプトを翌月の請求時に再提出すると、どの程度復活していますか。



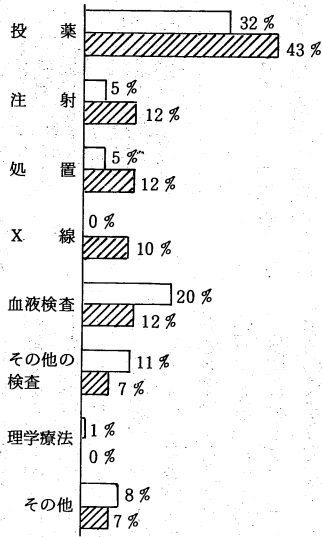
問3. 減点されたレセプトは再審査請求しましたか。



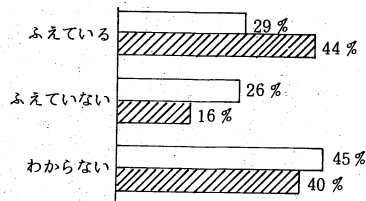
問5. 査定・減点についてどう思われますか。(重複可)



問4. 返戻及び減点を受けた項目



問6. 最近、保険者返戻がふえているように思われますが、いかがですか。



した。今回も回収率は十七・〇%と低い値を示しており、行政に対する会員の非積極性が示されており。この非積極性が日医の弱体化にも連なっているように思われます。各問について、昨年と本年と比較してみると、

相変わらず少ない再審査請求

問①では、昨年に比して大量の減点、返戻は減少の傾向にあるが、少量の減点、返戻は増加の傾向にあるようです。浅く広く削っている様子が伺えます。

再審査請求をすすめてみましょう

問②では、返戻レセプトの復活率が六一・八%から三七・〇%に低下していることが目立ちます。審査の強化が現実的数字の上でも表われて来ているようです。

問③では、再審査請求率が相変わらず低いことがわかります。大阪、兵庫、京都などの近畿地区では再審査請求率が非常に高く、私達もさらに再審査請求率を高めるよう努力すべきであることが反省されます。

納得できない査定減点には、ただちに再審査請求しましょう。再審査請求によって審査委員から不当な扱いを受けることは決してありません。むしろ再審査請求は主治医の診療方針を審査委員に正しく理解してもらうこととなります。再審査請求用紙を一部お送りしますが、さらに必要な場合、当会までご連絡ください。無料でお届けします。

保険者に教育されているのでは

問⑤では、社保と国保の差が減少しているようです。問⑥では、保険者返戻の増加を認識している会員が増加していますが、まだ、その実態を認識していない会員も多いようです。

問⑦では、昨年と大きな違いはありません。問⑧では、昨年と大きな違いはありません。

適応症の解釈は

(内科 4年)

・薬効再評価で大分ビタミン剤の範囲が少なくなりましたが、適応はなるべく広くみてほしい。例えば感音系難聴への、ノイロピタン、ピタノイリン等は狭くみると適応しないようにも取れるが、広くみれば充分適応になると思う。(耳鼻科 29年)

アンケートの意見欄より

審査委員にお尋ねします

・個人開業医は必要以上に審査に神経質になっていくように思いますが、実際、審査上問題になるのはどういう医療機関ですか。診療所、個人病院、公立病院、大学病院に分類して、どこに問題が多いのでしょうか。(内科 6年)

診療側代表の審査委員へ

・医師会より代表として出ている審査委員は開業医の味方として公益代表(保険者)の審査員の悪い者を公表して、医師会幹部役員は末端開業医の声を聞きながら医師会代表の審査員を勧誘するようにしていただきたい。(不明)

・急性尿道炎及び腎盂炎でチタシリン8カップ／T(六時間毎に2カップづつ)を使用したところ、使用量が多い、文献では二五〇mg・一日三〜四回と書いてある、能書をよく読んで使用せよ、とのこと、再提出したところ、一日6カップに査定された。もちろん再提出の際には、患者の病状よく再発を繰り返す患者なので……と、くわしく述べて出したのですが、これは全国土木の家族のレセプトです。(内科・小児科 18年)

いるようですが、基金職員への最近の教育内容についてご教示下さい。(内科 6年)

・審査委員は超音波を目のカタキにしている。(内科 30年)

・初診患者全員に検尿を行うことは査定の対象となるのか。(内科 17年)

九月二十九日、経営税務担当者交流会が東京で持たれ、全国から五十一名が参加して活発な意見の交換が行われ、有意義な会であった。

最初に、税理士・益子純一先生の「税制の抜本的改革と「医業税制」と題する講演があり、「戦後総決算」と称せられ、税制面では大型間接税導入が企てられてきている最近の情勢、医業経営の現状、税制・税務行政の動向、大型間接税について等と容易ならぬ状態を述べられた。特に大型間接税については直接税の減税と引換えの形で出されようとしており、数々の問題点があることから、導入を阻止しなければならないことが強調された。



写真は第52回健康なんでも相談
(10月5日、長田町公民館にて)

全国経営税務担当者交流会より

急を要す 税対策の強化

理事 勝木 育夫

午後各協会の活動報告が行われ、事業税について送られても、地方財政が苦しい限り必ず持ち出されるもので、継続して運動すべきことが話し合われた。

その他、税務調査の動向として、徴税の方ばかりでなく、資料調査課が査察まがいの調査を行っていること、主として経費の否認により修正申告を求めてくること。更に現在、日医がすすめている一人法人についても色々問題があり、そのままの形では具合が悪く、もっといい形におおす必要があるということ…等が話し合われた。

各府県で議員や他の団体に働きかけて若干の成果を挙げているのを知り、私達も何らかの形で運動を起さねばと思いつつ、今度たとえ見(共済・経営対策部長)

地域に定着した
健康なんでも相談

—50回記念懇談会開く—

これまで二、三回に渡って健康なんでも相談を開催していただいた住民団体より十二

名の参加を得て、九月二十九日、県教育会館にて「五十回開催記念座談会」を開きました。

地元で顔なじみの先生が

最初に大野理事から、協会が健康なんでも相談に踏み出した動機、初回の五十五年十月から五十四回の六十年九月に至る経過をエピソードを交えて紹介し、今後いっそう発展させていくために、この日の懇談会を持ったと挨拶。

参加者からは、「二十〜三十名の集まりで先生方と膝を交えて話し合える雰囲気がいい」「地元で顔なじみの先生がおいでなので質問や意見も出しやすい」「自分や家族の健康を顧みるよい機会となった」と同様の発言があり、いずれも年一、二回の定期開催を申し入れたいと述べられていた。

小松や七尾での開催も

さらにこれからの要望として、「成人病予防の食事の作り方を栄養士さんにお願いたい」「話題提供の際にはスライドやビデオの活用も効果的」「老人会ばかりでなく壮年層も対象にしたほうがよい」「老人会と婦人会は共催したほうがよいと思う」「金沢以外で小松や七尾でも開催して

専門部だより

地域医療対策部の活動は院外と院内の二つに大きく分けられると思います。

①院外活動のメインとなっている健康なんでも相談の開催数は五十回を超え、地域によっては恒例化し全体として定着してきています。過去五年間の健康なんでも相談の経過を「月刊保団連」十一月号特集にまとめてみましたのでご参考下さい。

先日五十回を記念し、いまままでに協力いただいた老

健康なんでも相談を活動の中心に

地域医療対策部

について話をしてもらったとの報告があり、健康なんでも相談が地域の人達の自主性を生み出す下地になれば何よりです。今後とも会員の皆さんのご協力をお願い

人會、婦人會、公民館などの代表の方々と懇談会を持ちましたところ、積極的な意見が数多く出され、なかには自分達が直接、金大がん研病院に交渉し、胃がん

老人問題は避けて通ることの出来ない問題ですので、今年も医療の面から、シンポジスト、その他の協力をを行うことにしています。

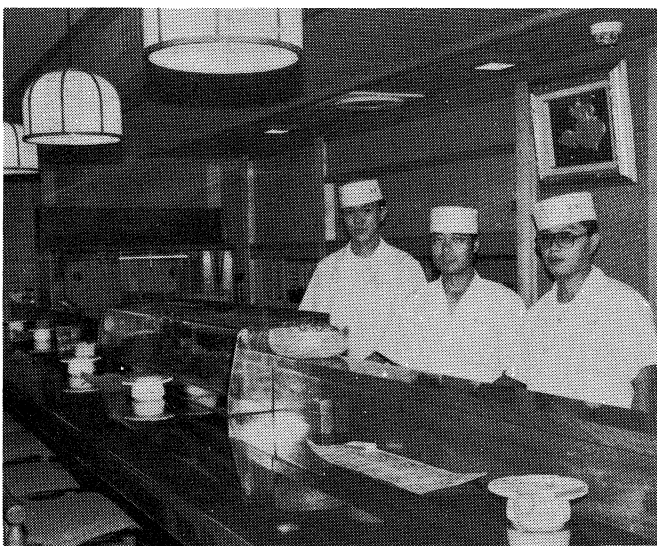
④健康のしおりは年四回発行の予定ですが、内容について、もっと検討したいと思っています。

院内に関係したものととして学術部と協力し、「慢性疾患指導のマニュアルづくり」を行っています。近く皆さんのお手許にお届け出来ると思います。

来年、保団連北信越ブロックの第二回地域医療交流集会が七月に開かれる予定になっていきます。(部長 大野幸治)

あの店この店

割烹 大吉



11月12日に食べ歩き会を開く割烹大吉

割烹「大吉」は金沢片町の犀川辺りに立ち並ぶ飲食街の一角に、小じんまりとした店を構えている。創業は昭和二十年の混乱期に、先代が長土塀の大野庄用水沿いに営業を始め、昭和四十八年、当主が先代の跡を継いだ。二年前に片町に移り、店内はまだ木の香も新しい。

自慢料理はと聞くと、「地元の素材を生かした加賀料理」が得意という。十一月は蟹も解禁となり、魚が美味しくなる季節なので、晩秋の味覚を大いに期待している。

食べ歩き会のご案内

◆とき 十一月十二日(火)

◆ところ 午後七時

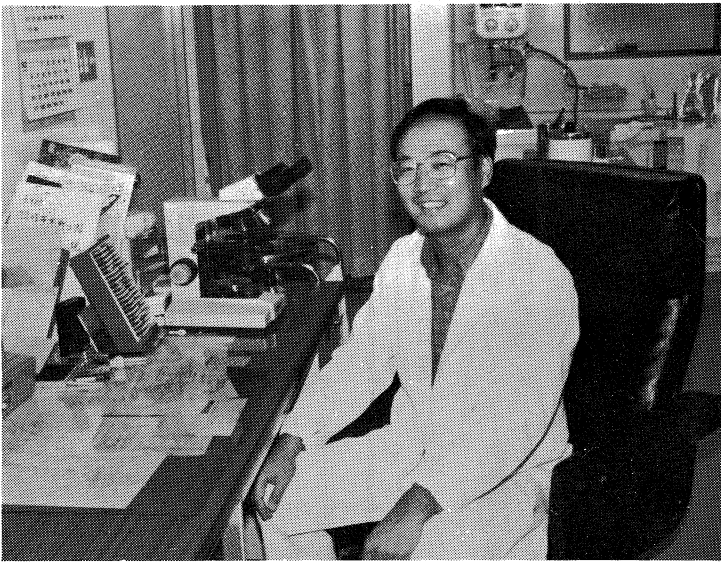
◆会費 八、〇〇〇円

※希望者は協会事務局までご一報ください。

応急処置の実技講習会

なごやかで充実した2時間

羽咋・宇出津でアンコール



ここにやかにインタビューに答える武原秀明先生

応急処置は 観察から

田中和枝

九月二十七日、羽咋文化会館において行われた、人工呼吸、心臓マッサージ、止血などの基本的な応急処置について実技講習に参加した。看護生活浅き私は、六十四名の参加があった会場の雰

囲気に圧倒されて、緊張はぐれぬまま会が始まった。すべての応急処置は観察から始まる。出血、意識、呼吸、脈、手足は動かさず、顔色、皮膚の色、体温などに気をつけ、呼吸が止まった場合の人工呼吸

九月二十七日(金)、二十八日(土)に、それぞれ羽咋・宇出津両会場にて、従業員講習会が行われました。これは六、七月に県下六会場で行われた「応急処置の実技講習会」が大変好評であったため、追加開催となったものです。羽咋会場では、公立志雄病院の木藤先生が司会され、八医療機関から六十四名が参加。宇出津会場では、持木先生が司会され、七医療機関から三十八名が参加しました。いずれの会場でも熱心にメモを取ったり、講師の大橋氏のユーモアあふれる話に大声で笑ったり、なごやかで充実した二時間でした。

を二班にわかれて行った。前額部に手をかけ、もう一方の手を首の下に差し入れ、頭をそらすようにして気道を確保し、人工呼吸をした。最初四回続けて吹きこむ。一回目を吹いたら余り空気が肺に入らず、あとはうまく空気が入り、吹き方の感覚を忘れないように指導された。人工呼吸をしてみても、意外と強く吹かねばならないなあと感じている人や、顎が痛くなったと言う人、心臓マッサージでは胸骨と肋骨の中心を手の甲で押すのですが、強く押すと肋骨が折れる場合もあるとのこと。強弱に気をつける。日本赤十字社救急法指導員・大橋俊信先生の巧みな話術の内に会場も柔らいで、とても良い雰囲気でした。一開業医に勤めている者にとっても勉強になりました。

大橋俊信先生のユーモラスで巧みな話術は、大変印象深く興味ある講習会でした。救急患者の対応、応急処置など日ごろ理解している心算でも実際にぶつかって見れば、果して迅速かつ適切な処置が施せるでしょうか? 見ていれば簡単なようでも、むしろ難しいことが、レサシアンネを使つての実技で痛感致しました。最初は遠慮気味だった皆さんも、指示通りの位置に手を置き、全神経を集中させて挑んで見ますが、何故かうまく行かないのです。セフテイルランプが点灯した時は、やった! という緊張感で自己満足しておりましたが、本番では練習はありません。肋骨を

プロとしての 自覚を持って

中野裕子

何本も折るわけにもいきません。人工呼吸と心臓マッサージのタイミングの合せ方、リズム

ムの取り方など良い勉強になりました。又、風呂敷を三角巾や包帯としての活用法、ビニール袋をすっぽり被って火災時の避難法、トゲの除去に五〇円硬貨や五円玉の利用法等、そしてビニール袋に息を吹き込んで吃逆を止める方法もぜひ試してみたいと思います。とにかく二時間という限られた時間を精一杯使つての、

雨にもめげず

天竜下りと木曾路の旅

第十一回家族・従業員レクリエーション、天竜下りと木曾路の旅を九月二十二・二十三日(一泊二日)に開催致しました。今年の夏は猛暑が続き、初秋には雨の毎日でした。

天竜下りと木曾路の旅の日も期待を裏切るかのよう朝から小雨の降る中、予定通り午前八時出発しました。今回は十一医療機関二十七名の参加者があり、バスは金沢西インターを通り天竜峡へと...

二日目も雨の中、龍峽亭を後に妻籠(奥谷郷土館)、馬籠(藤村記念館)をはじめ、ゆかりのものが多く、宿内は急な坂道の両側に石垣の上に築かれた家並がつづき、時折雨やどりをしながらの旅ではあったが、時間があればもう一度訪れたい町です。二日間、雨の旅でしたが、デラックスバスとベテランガイドさんに恵まれ、楽しい旅でした。昨年と今年、二年連続の雨にたたられましたが、来年のレクリエーションは晴天でありますように。

羽咋で初の皮膚科開業

武原秀明先生の巻



先生は昭和五十四年、徳島大学を卒業され、故郷が羽咋とのことで、金沢大学皮膚科教室に入局された。四年間教室に在局され、その間、厚生連高岡病院、石川県立中央病院などにも勤務された。石川県立中央病院時代は小生も同僚としてお付き合いしていたが、

論、看護婦さんらにも非常に人気があったことを覚えていた。金沢一七尾間には皮膚科専門医院はまったたくなく、在局時代から、つねづね同僚間で「誰か開業しないかなあ」と話しておられたそうである。また、羽咋市内に手頃なテナントがあり、五十八年四月、開業に踏み切られた。

「まさか自分が当地域のトップに開業するとは思わなかった」と述べられた。当初の予定通り、当地域の皮膚疾患を一手に引き受けるつもりで頑張っており、幸い、開業当初から患者さんも比較的多く、年々順調に増え、やりがいもあるとのことである。しかし、皮膚科はどうしても投薬が主となるので、毎年の薬価ダウ

ンにより患者が増える割には収入が増えないという厳しい現状も訴えておられる。家族は奥様と四歳の長男、二歳の長女と四人で、皆、まだまだ若いから長年に頑張りますと笑っておられた。又、奥様は看護婦の免許もあり、非常時には応援してもらおうつもりであるとのことであった。

開業してからは、や、太目となったので、なるべく運動するように心懸け、特にゴルフに本腰を入れるつもりであると話された。皮膚科コンペにも連続優勝された由、ゴルフ談議に花を咲かせてインタビューを終えた。

(聞き手 柳下邦男・機関紙部長)

当時は新進気鋭の若手医師として活躍され、患者さんは勿

たまたま、羽咋市内に手頃な



来年のレクリエーションは晴

